

「つながりを大切に」

皆さんは食えることは好きですか？私は大好きです。作ることも食えることと同じくらい大好きで、将来は食に関係する仕事に就きたいと思い、食について学びを深めるために大学に進学しました。食品には三つの機能があることをご存じですか？一次機能は栄養成分の摂取、二次機能はおいしさを味わうこと、そして三次機能は病気のリスクの低減です。しかし、私はもう一つ大切な機能があると思っています。それは、「人と人との気持ちをつなぐ」機能です。コロナ禍になって、マスクを外しての食事は黙食を徹底し、席にはパーテーションを設置したり、一つ空きの席に座って食事をしたりするということを経験し、友達や家族と食事に来ているにも関わらず、まるで一人の空間で食事をしているような気持ちになりました。

た。このようなことを経験し、私は改めて誰かと同じ空間で一緒に食事をするということの大切さに気づきました。

私の通う大学では一年生の間にはほぼ毎週調理実習が行われます。コロナ以前の調理実習では本来は中国料理は大皿からみんなで取り分けて食べたり、クリスマス料理では大きな丸鶏を一つの班で一つ調理しみんなで切り分けて食べていたそうです。しかし、私たちは出来上がった料理をそれぞれお弁当箱に詰めて持ちかえって食べることに、と決められていました。少し冷めたご飯を一人の家で食べると本当はとてもおいしいはずの料理が少し物足りない、そんな気持ちになりました。誰かと食事をするにはおいしさを倍増させると感じました。

まだ、大学の食堂には白いパーテーションボードが設置され、友達と談笑しながらご飯を食べることはできません。しかし、コロナが終息した暁

にはみんなと一緒に同じお皿のご飯をおなか一杯食べたと思います。

大学一年生のころはコロナウイルスの蔓延の真ただ中だったため、なかなか簡単に帰省することができませんでした。それでも地元に戻ったときには近所の方や、知り合いの方に「おかえり」と声をかけていただけで本当に嬉しかったし、自分には帰ってくる場所があるということが分かって本当に安心しました。また、徳島県や鳴門市の県外に進学した学生に対しての支援物資にも本当に救われました。県外で頑張る自分たちを応援してくれていると感じられてとても元気づけられました。コロナ禍という終わりの見えない大変な状況の中でも沢山の経験ができているのは私の夢を応援してくれて影でいつも支えてくれる家族、どんな些細な相談にも乗ってくれて、親身になって話を聞いてくれる友達、そして県外に居る間は元気にしてるかなと気にかけてくださ

り、帰省した時には温かく迎えてくださる地域の方々のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

一つひとつは小さなつながりかもしれませんが、どれも切ることのできない大切なつながりです。私たちはコロナ禍という異常事態でつながりの大切さを再確認することができました。そしてコロナが終息してもこのつながりを切らないように、大切にしていかなければならないと思います。

私は将来、管理栄養士として、多くの人に食べることはこんなに楽しいんだと思ってもらえるような食育活動や鳴門のおいしい食材を通じて様々な年齢の人々がつながれる場を作っていきたいと考えています。たくさんのつながりに助けられてきた私が、今度は次の世代に新しいつながりを作るきっかけになりたいと思います。